

平成24年度 事業計画書

公益財団法人 池谷科学技術振興財団

当財団は、内閣府公益認定等委員会の認定を得て、平成23年4月1日より公益財団法人池谷科学技術振興財団として新たなスタートを切った。

昨年3月に発生した未曾有の大震災に加え、ユーロ圏諸国の財政危機や中東情勢問題などネガティブ要因に伴う円高の継続により日本経済の先行きは不透明である。

公益法人として2年目にあたる今年度は、当財団の事業活動の財源である東京製鐵株式会社からの受取配当金も、平成23年度の8円(期末5円、中間3円)よりさらに減少する見通し(期末3円+中間3円の計6円)であり、財団として当面、事業規模は拡大を見込めないことから、平成24年度も厳しい外部環境に対応しつつ、着実に事業を推進することを目指す。

助成事業に関しては、WEB上でのアップロードによる申請開始から3年目となり、申請者が応募しやすい体制を構築することで、さらなる定着を目指したいと考えている。

1. 助成事業

平成24年度の研究助成は、配当受取金が年間6円(期末3円+中間3円)であると予測し、1件150万円を上限とし45名、計6,000万円を助成する。

なお、今年度は東日本大震災に対する復興支援助成として、関連する内容の研究を優先的に採択する。

[平成24年度研究助成および平成25年度研究助成の日程]

平成24年度研究助成は例年と同様、同年2月に選考委員会で採択案を決定し、次いで第3回理事会で承認を受ける。4月初旬に全ての申請者および所属機関の学長に対して採択結果を通知し、助成者については、6月の理事会終了後に贈呈式を開催して表彰を行う予定である。

また、平成25年度の研究助成についても例年と同様、平成24年6月までに募集要項を決定した上で10月から募集を開始する。

以上の内容を具体的に表1に示した。

表1. 平成24年度および平成25年度 研究助成の日程

平成24年 2月	選考委員会による平成24年度研究助成採択案の決定
同 3月9日 (金)	理事会で平成24年度研究助成決定
同 4月初旬	申請者および所属機関長に対し採択結果通知

同 6月8日 (金)	理事会で平成25年度研究助成募集要項の内容決定 平成24年度研究助成金贈呈式
同10月1日 (月)	平成25年度研究助成募集 開始
平成25年2月	選考委員会による平成25年度研究助成採択案の決定

(2) 国際交流等助成

海外派遣助成および外国人研究者招聘助成を合計4名、1件あたり50万円上限とし、計150万円の支出を行う。

2. 普及啓発事業

平成24年9月2日から5日に長崎ブリックホールで開催予定の「第22回池谷コンファレンス」および平成25年7月に神戸で開催予定の「第23回池谷コンファレンス」について、計1,000万円を支出する。

「第22回池谷コンファレンス」の目的・特徴

会議名は「第22回希土類磁石とその応用に関する国際ワークショップ」である。この会議は、1974年、故K. J. Strnat博士により提唱されて以来、今日まで継続している国際会議であり、その目的は希土類磁石とその応用について研究している内外の科学者が一同に集い、最近の研究成果を発表するとともに情報ならびに意見交換することにある。今回は、この歴史ある会議を池谷コンファレンスとして開催する。会議では主に希土類磁石の製造プロセスと応用、希土類遷移金属合金の基礎物性、新規磁性化合物について討議する。

「第22回池谷コンファレンス」の意義

今日の私たちの生活を支えているコンピュータ等の電子通信機器に利用されていることから、欠かすことできない材料の一つが永久磁石（希土類磁石）である。また、最近ではハイブリット自動車の駆動モータや産業用モータなどに応用され、省エネルギーとCO₂ 排出量削減に貢献する環境調和型材料である。日本は永久磁石に関する研究において最高水準に位置し世界をリードする立場にある。そのため、本会議の開催意義は内外を問わず極めて大きく、この分野の世界的発展に大きく寄与するものと確信する。

3. 情報

ホームページやサーバを利用した情報発信の向上に努める。特に助成事業の電子申請および研究成果物の電子公開については今年度も継続する。

電子公開

平成25年 3月 平成24年度助成者研究報告書 当財団ホームページで公開